

いまこそ、歴史的情勢にふさわしい同盟活動をつくろう。たたかいを強め、展望を示し、青年の巨大なうねりをつくりだそう

2024年11月24日 採択

第1章、世界と日本の情勢のもとで民青同盟に求められること

(1) 歴史の本流と逆流のぶつかり合う世界情勢

ロシアのウクライナ侵略から2年9ヶ月、イスラエルのパレスチナ大規模攻撃開始から1年2ヶ月。軍事力行使によって自らの主張を通そうとする、まさに歴史の逆流ともいえるべき勢力と、人々の命と暮らしを守り話し合いによって問題を解決しようという、歴史の本流ともいえるべき勢力のぶつかり合いが続いています。歴史の大逆流を後押しする勢力の蛮行はエスカレートし、世界各地での軍拡の呼び水となっています。

しかし、必ず歴史は前に進みます。世界中で、また、ロシアやイスラエル国内ですら、侵略や虐殺を非難し、平和的解決を求める動きが強まっています。いくつもの国が軍拡に走る一方、この間のいくつかの国際会議では、ブロック政治でいいのか、といった問いかけが共感を呼び、国連憲章と国際法に基づいた団結で戦争終結の道を希求する動きが生まれています。このような動きをもっと強め、一日でも早く、歴史の本流が逆流を大きく押し返すことが必要です。核兵器禁止条約が、様々な妨害がある中でも、着実に批准国を増やしていることは重要です。日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことは、核兵器廃絶への大きな追い風となっています。

アメリカでは深刻な行き詰まりのもとで、「自国第一」を掲げる共和党のトランプ氏が大統領に再任することになりました。トランプ政権にどう向き合うか、日本でも問われています。

日本には世界のなかで果たすことのできる役割があります。戦争被爆国であり、平和憲法を持つ日本らしい外交は、歴史の本流を力強く後押しするものとなります。民青同盟として、様々な草の根の取り組みと力を合わせることを継続しつつ、日本の政治を変えて日本政府に役割を果たさせることを目指して取り組みを進めましょう。

(2) 日本の情勢と青年の模索

2024年10月27日投票の総選挙は、自民党・公明党の過半数割れという歴史的結果となりました。自民党の絶対得票率14・04%は、青年・国民から政権与党が見放されている証左です。青年・国民が自民党政治にかわる新しい政治を模索する歴史的情勢が始ま

っています。この情勢はどのようにしてつくられてきたのでしょうか。

根本にあるのは、自民党政治の行き詰まりです。第47回大会以降の一年、「財界中心」「アメリカいいなり」という自民党政治の特質をこれ以上ないほど深化させる岸田政権のもとで、青年の実態はよりいっそう深刻になりました。いまでも高いのにさらに値上げされようとしている大学の学費、物価高騰のもとで上がらない賃金、「戦争国家づくり」によって脅かされる平和、異常気象をひしひしと実感する気候危機、一人ひとりの生き方を狭め抑圧するジェンダー不平等の政治など、さまざまな問題が青年を苦しめていました。「ネットワーク運動」や国立大学学費値上げへの抗議行動、最低賃金大幅引き上げをもとめる取り組みなど、岸田政権を世論と運動で包囲していくたたかいが広がる一方で、それに対抗するかのようにはじめとした各分野で悪政を推し進めてきたのが岸田政権でした。岸田政権は、裏金問題をはじめとした各分野からの批判と追及に追い詰められ、2024年8月14日、退陣を表明しました。

岸田政権を継承したのが石破政権でした。石破氏は、民意を受けて自民党政治を改めるかのような言動がありました。首相就任後は、青年・国民の期待を早々に裏切りました。それに対する失望と、しんぶん赤旗の裏金問題スクープが重なって、自民党は総選挙で歴史的な大敗を喫したのです。

青年の政治的模索はこの一年のなかで急速に深まりつつあります。青年からの岸田政権に対する支持率は、極めて低いものとなりました。石破政権となって迎えた総選挙では、10代・20代の顕著な自民党離れが起こりました。これは、「なぜ自分たちはこんなにも苦しいのか」「もっと政治にできることがあるのではないだろうか」という模索が、政権批判の方向に強まっていることを示しています。同時に、大事なものは、青年の模索が、今後、「財界中心」「アメリカいいなり」から抜け出すという確かな展望に行き当たるまで、強まりながら継続するということです。そして、紆余曲折を経て、そこに確かな展望が示されたとき、模索する青年は、いまの自民党政治を乗り越える自覚的な主体者としての一步を踏み出すことができます。この大規模な集合が、自民党政治を乗り越え新しい政治をつくる巨大なうねりとなります。総選挙後に生まれた流動的情勢は、青年の模索をよりいっそう促進し、確かな展望に行き当たる条件を劇的に高めるものとなっており、青年の模索が巨大なうねりへと一気に変化するカウントダウンが始まっています。総選挙を終えて、いま、歴史的情勢がつくられているのです。

では、この歴史的情勢のなか、自民党政治から抜け出し、新しい政治をつくりだし、情勢を前向きに突破していくために最も必要なことはなんでしょう。それは日本共産党の躍進です。日本共産党の躍進は、青年の政治的模索に対する最も明確な出口であり、青年の模索が自民党政治を乗り越える巨大なうねりへと変化していく大きな後押しとなります。日本共産党の躍進によってこそ、いまの野党の状況のなかでは、自公+補完勢力に代わる新しい政権がつくられる道がひらかれます。日本共産党の躍進こそが、新しい政権が最終的に「二つの異常」を乗り越えていく確かな保証となります。また、日本共産党が躍進すること

によって、平和的秩序をつくる歴史の本流が強まるなど、世界と日本の歴史を前に進める力になります。

2025年は都議選・参院選があります。12年に一度の連続選挙です。総選挙もいつあるかわかりません。日本共産党の躍進で「二つの異常」から抜け出し要求が実現されるといふ展望を、模索する青年に示し、青年のなかにうねりをつくりながら、日本共産党の躍進を現実のものとしていく情勢です。

(3) 第47回大会期の民青同盟は役割を發揮してきた

第47回大会期の民青同盟は、「願い実現のために力を尽くす」「深刻な実態のおおもとに政治の問題、資本主義の問題があることを指摘・告発する」「理論的にも実践的にも、社会や政治が変わる展望を示す」「青年に働きかけ、ともに立ち上がり、ともに生き方を考える」という「四つの役割」を發揮し、青年の政治的模索を、巨大なうねりに変えるために力を尽くしてきました。

民青同盟は、週一回の班会開催を基礎に、青年の要求実現をおこなうとともに、「二つの異常」を告発し、「ともに自民党政治を終わらせよう」と呼びかけてきました。「ネットワーク運動」を草の根で強め、若者憲法集会を大きく成功させました。民青同盟は、自民党政治に代わる新しい政治の展望を示すとともに、社会主義・共産主義を学び青年により根本的な打開の方向を語り広げました。「4・27学生オンラインゼミ第三弾」は社会主義・共産主義の魅力を伝える心強い内容となり、それが書籍化された『Q&A 共産主義と自由』は大きな反響を広げています。3251名の仲間を迎え、同盟現勢は大きく前進しました。重要なのは、民青同盟の役割發揮が、多彩な形をとっていながらも、一貫して、政権を追い込む世論をつくる側から、おこなわれてきたものであったということです。民青同盟の活動と8月の岸田政権の退陣もつながっています。民青同盟の役割發揮は、歴史的情勢を必ず前に進めます。全国各地の民青同盟がもっと強く大きくなるならば、自民党政治を乗り越える巨大なうねりを青年のなかに作りだし、新しい政治を切りひらくことができます。このことを確信に、さらなる同盟活動の発展をつくることが求められています。

(4) 第48回大会期の民青同盟に求められること

歴史的情勢のもとでさらに鋭く役割を發揮していくうえで、民青同盟には何が求められているでしょうか。

第一は、情勢にふさわしい規模でのたたかいを広げることです。国政選挙の取り組みを軸に、「ネットワーク運動」を土台に、草の根からたたかいかつてなく広げましょう。歴史的情勢のなか、国政選挙で日本共産党の躍進を勝ち取りましょう。

第二に、この情勢にふさわしい形で、民青同盟らしい学びを強化することです。とくに、『科学的社会主義Q&A』ブックレットをすべての班と同盟員が学び力にするとともに、青年のなかに広げましょう。そして、『Q&A 共産主義と自由』を学び同盟内で質的变化を

つくとともに、青年との関係で、共産主義のイメージを一新する特別の取り組みにつなげましょう。歴史的情勢のもとで共産主義のイメージを一新させることには、日本の歴史にとっても大事な意味があります。

第三に、この情勢にふさわしい組織づくりに班と機関が自覚的に挑戦することです。情勢にふさわしい班、情勢にふさわしい機関をつくりあげ、新しい政治を切りひらく確かな力をつけましょう。たたかい、そのなかで青年との結びつきをひろげ、仲間を迎えていくことを、週一回の班会開催を力に、班が自覚的におこなっていけるようになることが切実に必要です。班を支えるとともに、自らが方針実践の先頭に立つ役員集団になることが、これまでにままして必要です。この方向で、民青同盟の前進を次のステージに移行させましょう。

第四に、都議選・参院選および総選挙にあたっては、日本共産党の躍進が求められる歴史的情勢であることを、よく討議し、同盟全体の共通認識にすることです。中央委員会としては、適切な時期に、選挙アピールを出します。

第2章、国政選挙を軸に、情勢にふさわしいたたかいを展開しよう

第47回大会期の民青同盟は、若者憲法集会が呼びかけた「敵基地攻撃能力保有・大軍拡に反対する青年の草の根ネットワーク運動」（「ネットワーク運動」）を軸にたたかいを展開し、2024年10月には総選挙を軸に置き換えてたたかいに踏み出しました。同時に、学費運動、労働運動、原水爆禁止世界大会、最低賃金の引き上げを求める取り組みなど、様々なたたかいに大会期を通じて力を合わせてきました。全国各地で青年の要求を掲げ、青年との共同をつくりながらたたかう民青同盟は、青年と社会にとってなくてはならない存在です。

総選挙の結果、たたかいによって要求を実現できる条件がこれまで以上に高まっています。少数与党という状況で、すべての政党が青年の要求とどう向き合うのか白日のもと問われ続けるからです。この過程においては、青年の模索がさらに鋭くなり、確かな展望へと結びついていく必然性があります。

第48回大会期は、このような歴史的情勢をよく踏まえて、たたかいを広げていきましょう。「ネットワーク運動」を土台とし、土台を強化しながら、国政選挙を軸に据えてたたかいの発展を勝ち取り、たくさんの青年に確かな展望を示していきましょう。参議院選挙は都議会議員選挙の直後、7月にあります。総選挙もいつあるかわかりません。選挙のたたかいに生かすことを見越して、あらゆるたたかいを組み立てましょう。

(1) 各分野のたたかい

■平和・憲法

岸田政権が推し進めてきた「戦争国家づくり」は、自民党政治のもと、継続されています。日本の大軍拡は、世界と東アジアに緊張を与え、青年・国民の暮らしを圧迫し、命を危険にさらすものです。これは、日本国憲法の精神と全く相いれません。

草の根で「ネットワーク運動」をすすめ、敵基地攻撃能力保有・大軍拡に反対する一点での青年の共同をつくりましょう。この共同は、様々なたたかいはつくり発展させていく土台となる可能性を持っています。そのための工夫を強めましょう。

各地で結成されている若者憲法集会実行委員会での多彩な取り組みも強めましょう。学習会、交流企画、宣伝対話などをおこない、日本国憲法の魅力を発信するとともに、「ネットワーク運動」ともリンクさせましょう。

2025年5月25日の若者憲法集会を大きく成功させましょう。

原爆投下から80年となる節目の年に、日本被団協がノーベル平和賞を受賞した直後の原水爆禁止世界大会の成功に、力を合わせましょう。

■暮らし・働き方

大企業の内部留保は539兆円を超えました。自民党政治のもとで、青年の暮らしは苦しくなる一方です。自民党のなかでは解雇規制緩和など労働法制の大改悪の動きすらあります。長年のたたかいはつて最低賃金が加重平均でやっと1000円を超えました。しかし、依然として1000円に届かない県があるとともに、既に時給1000円でも到底生計がなりたたない社会になっています。具体的な要求を掲げてたたかうとともに、政治を根本から転換することで要求を実現する展望を学び、発信することが求められています。総選挙で各政党が最低賃金1500円などを掲げたことは大きな前進であり、公約実現を迫りましょう。

都道府県・地区・班で結び付いている青年の暮らし向きや働き方をよく掴むとともに、一緒に要求実現のために行動することを大切にしましょう。班は、草の根の若者憲法集会実行委員会の取り組みに生かすような工夫をしましょう。

労働法制改悪といった政治の動きに対しては、民青同盟として、職場前をはじめ働く青年を対象とした宣伝や、働く青年を対象とした学習会に挑戦しましょう。政治を根本から変えることを訴え、ともに暮らし・働き方を大きく改善させることを呼びかけましょう。同時に、職場班を中心に労働組合に力を合わせ、労働運動の発展と職場における待遇改善を勝ち取りましょう。

■学費・奨学金

私立大学の学費値上げが続き、東京大学など一部国立大学も学費値上げを表明するなか、自民党は国立大学の標準額を値上げする動きを見せています。私立・国公立の各大学における学費値上げ阻止、そして、政府による国立大学の標準額値上げを阻止するたたかいが、強く求められています。いま必要なのは、学費値上げではなく、学費無償化に向けて舵を切り、

学費を値下げし、給付制奨学金を大幅に拡充することです。

各学園に根差して、学費値上げ阻止のたたかいを、学生との共同の枠組みでおこなうことに挑戦しましょう。幅広い学生の共同によって、学費値上げを許さない世論を草の根でつくりだしましょう。草の根の力を全国的な力とするために、中央青学連が呼びかけた「全国統一署名」を位置付けて取り組みましょう。総選挙の結果を踏まえて、学費値下げ・無償化を迫りましょう。

また、食料支援活動を継続し、学生の苦難に寄り添いましょう。

■気候危機

猛暑、大雨、巨大台風など、この間の異常気象とその被害によって、気候危機への対策を求める声が強まっています。再生可能エネルギー導入の妨げとなっている原発に頼らずに、有効な政策をおこなっていくことが必要です。

気候危機の現状を学ぶことと、政治と結びつけて展望を学ぶことを重視します。展望を学ぶにあたっては、資本主義のもとでも可能なことをよく掴むとともに、社会主義・共産主義でこそ根本的に解決できるという展望についても、学びましょう。

民青での学習企画への青年の参加を重視するとともに、都道府県・地区・班として、青年の様々な行動に力を合わせることも検討しましょう。

■ジェンダー・人権

運動と社会進歩のなかで、ジェンダー・人権の観点から、社会が引き続き問い直され続けています。法的結婚時における夫婦同姓の強制、女性の社会的・経済的立場の低さ、性暴力・性犯罪の被害者認定と救済、LGBTQ+に関する差別、民族差別、障害者差別、入管行政、生活保護バッシングなどは、ジェンダー・人権に関わる課題として、いま、政治が責任をもつて解決しなければならぬ問題です。自民党政治のもとで軽視されてきた課題も、いま、改善される条件が生まれています。総選挙で各政党が掲げた前向きな政策については、公約実現を後押ししましょう。

民青同盟としては、立ち上がっている青年に連帯するとともに、よく学び、未来を担うにふさわしい、ジェンダー・人権感覚を身に着けることを、まず、大切にします。政治の転換によって解決される展望を学ぶとともに、その展望と周りの青年の具体的要求を結び、草の根から行動したり発信したりすることも、合わせて大切にしましょう。地域・職場・学園を「誰もが生きやすい」ものとしていくことは、班が草の根で要求実現をしていくうえで欠かせない視点です。

また、被災地におけるボランティア活動や避難所での待遇改善などにも、共産党と協力しながら、力を合わせましょう。

(2) 国政選挙

民青同盟は、2024年10月27日投開票でおこなわれた総選挙に、青年の要求を掲げて取り組みました。「日本共産党と一緒に政治を変えよう決議」をあげた班は36%にとどまりましたが、総選挙を班のたかひとして位置づけた、「班が主人公」での選挙の取り組みが、この間になく発展しました。班が地域・職場・学園に根差して主体的に宣伝・対話に踏み出す努力を通じて、民青同盟の持つ課題と可能性がより鮮明になりました。模索する青年と民青同盟の出会い、政治を変える確かな力となります。参院選では、適切な時期に出される選挙アピールに基づきながら、総選挙の教訓を生かし、民青同盟らしい選挙を、総選挙以上の規模でおこなひましょう。

総選挙で日本共産党の議席が後退したことは残念ですが、自公政権を過半数割れに追い込んだのは日本共産党の「しんぶん赤旗」です。相談相手が、歴史を前に進める大きな役割を發揮したことは、民青同盟にとっても誇るべきことです。

第3章、学習——質的發展をつくっていくカギ

多くの新しい仲間を迎える中で、学習のさらなる強化が求められてきています。学習は、要求実現であるとともに、質的な同盟建設の要です。第47回大会期は、日本共産党議長・志位和夫さんを講師に学生オンラインゼミ第三弾がおこなわれ、それは『Q&A 共産主義と自由』として書籍化されました。制度学習や多彩な学び、そして、『Q&A 共産主義と自由』と『科学的社会主義Q&A』ブックレットの活用をしっかりとおこなっていくことが、第48回大会期で質的發展をつくっていくカギです。

(1) 基礎講座と学習セミナーの徹底

同盟員の班会への参加と活動への結集を強めるために必要なのは、基礎講座と学習セミナーの徹底です。加盟後は速やかに基礎講座と学習セミナーの受講をおこなえるようにしましょう。加盟した場で、その場での受講も含む日程調整をおこなうとともに、その場で受講が出来ない場合でも資料等を渡す努力をしましょう。

新加盟者の学習セミナーは、第一課と第二課から学び始めましょう。学習セミナー第一課の教材でもある『科学的社会主義Q&A』ブックレットは、これを学ぶことで民青同盟の学びの魅力を奥深く実感できます。学習セミナー第二課の日本共産党綱領の学習は、新加盟者に具体的な展望を体系的に示す重要な機会であり、たかひに踏み出す後押しになります。班会で『科学的社会主義Q&A』ブックレットを進め、班会以外の時間をもって綱領を学習するなど、同時並行でおこなっていくことにも挑戦しましょう。

『科学的社会主義Q&A』ブックレットを学び終えた班は24%、所有している同盟員は22・4%です。科学的社会主義の最新の入門書である『科学的社会主義Q&A』ブックレットの活用は極めて重要です。都道府県委員会でも目標をもって推進しましょう。

(2) 『Q&A 共産主義と自由』の学習

学生オンラインゼミ第三弾と『Q&A 共産主義と自由』は、同盟に質的な変化をもたらしています。「自由な時間」という観点は、学習はもちろん、対話、たたかい、組織活動など同盟活動のあらゆる局面に生かされつつあります。地区委員会・都道府県委員会主催での学習会を基礎に、『Q&A 共産主義と自由』の見地を同盟内に行き渡らせましょう。とくに二つの質的变化を同盟内に自覚的に起こしていくことを大事にします。一つは、社会主義・共産主義の魅力を対話で語れるようになることです。いま一つは、「自由な時間」について深め、「自由な時間」での自主的活動として同盟活動の意義を捉えなおすことです。

なお、中央委員会としては、特別の取り組みとして、共産主義の正しい姿を伝えるキャンペーンを、ある時期に全国でいっせいに展開します。学習企画や宣伝対話で『共産主義と自由』の中身を押し出すとともに、日本政治に歴史的に存在してきた「反共主義」を告発し、押し返し、反共を当然とする政治を許さない世代をつくります。社会主義・共産主義を学ぶ民青同盟だからこそ、反共主義という差別を許す政治に声を上げる必要があります。

(3) 多彩な学び

制度学習とともに、班会での多彩な学びを大切にしましょう。専門家や民青卒業生、日本共産党の力も借りながら、学びによって、青年と班員の要求を実現していきましょう。各分野のたたかいや総選挙、科学的社会主義や日本共産党綱領と結んだ学習にも積極的に挑戦しましょう。

第4章、情勢にふさわしい同盟組織をつくろう——班の発展をつくり前進を次のステージへ

第47回大会期は3000人という拡大目標を掲げ、現在3251名の仲間を迎えています。3大会連続の拡大目標達成です。同盟員拡大数は、2002年以来となった昨年到達を超え、21世紀最高の到達となりました。現勢は909人前進しました。

画期的な拡大到達は、激動または歴史的な情勢のもと、「青年との接点を増やし加盟呼びかけ文を読んで粘り強く訴えればたくさん仲間を迎えられる」というテーゼを確信に、方針通りの活動が全国に広がるなかで築かれました。役員が先頭に立ち、学生新歓や街頭宣伝など、青年のなかに分け入って対話をおこない加盟呼びかけ文を使い、青年の模索に応え、たくさん仲間を迎えてきました。

同時に、「班が主人公」で仲間を迎えていく努力もおこなわれています。班がたたかいのなかで結びつきを広げ、そのなかで仲間を迎えていく自覚的な実践が各地で蓄積されてい

ます。これは第47回大会期につくられた前向きな変化です。この変化をさらに本格的なものにしていくことが、民青同盟の前進を、次のステージに移行させる条件です。

青年のなかに分け入って仲間を迎えていくことを継続しながら、「班が主人公」で、情勢にふさわしくたたかいのなかで結びついた青年を民青の仲間を迎えていく取り組みを強め、第48回大会期中に、民青同盟の現在の前進を次のステージに移行させましょう。

(1) 班

■班の課題と発展方向

全国各地で班が豊かな活動をしてきました。「ネットワーク運動」、学生の食料支援活動、労働法学習会、ジェンダー学習会、米軍基地F/W、進路交流会、たこ焼きパーティーなど、こういった班の活動は、民青の役割発揮を多面的に支えています。これらの班活動は、新加盟者が結集していく条件を広げるとともに、大局的には社会を変えていく力となつていくことは間違いありません。方針と照らし合わせたとき様々な課題が見えたとしても、班のこれまでの活動それ自体の重要性を大きな視点でよく確信にすることが、課題を乗り越える出発点です。

同時に、これまで全国大会の方針に基づき活動をしていく努力のなかで、多くの班が抱える具体的な二つの課題が見えてきました。一つは、班が地域・職場・学園に根差したたかいに踏み出していくことに苦労があるということです。いま一つは、班としての拡大の独自追求がまだ弱く新しい仲間を迎えられない、ということです。この二つの課題は、加盟した同盟員がなかなか班会に参加し活動に結集しない問題ともつながっています。この二つの課題を突破するために、二中委決議は、たたかいのなかで結びつきを広げ、「班が主人公」で仲間を迎える班になろう、と呼びかけました。二中委以降、端的ではありませんが、実践の経験が蓄積されています。これを生かし、すべての班が二つの課題を克服し、「たたかいのなかで結びつきを広げ、『班が主人公』で仲間を迎える班」になることを目指しましょう。これは、情勢と青年から求められている班の発展方向であり、同盟の前進が次のステージへ移行するうえで避けては通れないものです。

■三つの強化方向

「たたかいのなかで結びつきを広げ、『班が主人公』で仲間を迎える班」になるための強化方向は三つです。班の現状を肯定的に捉えながら、青年の要求実現のため、全国各地、地域・職場・学生・高校生、すべての班がこの方向で発展をつくることを呼びかけます。

第一の強化方向——たたかい

第一に、地域・職場・学園に根差したたたかいに取り組み広げる班になりましょう。たたかいは、国政選挙が軸で、「ネットワーク運動」が土台です。同時に、青年の要求実現という目的を持ち、青年を巻き込みながら取り組むすべてのことが現在の民青同盟にとっての

たたかいです。たたかいによってこそ班は役割の発揮を強め、魅力的な組織となっていけます。すべての班が「ネットワーク運動」を土台に、たたかいに踏み出す、もしくは、たたかいを発展させましょう。

班がたたかいに取り組み広げるうえで重要なのは討議、実践、継続です。

自分たちの班で取り組みたたかいにしても、中央・都道府県・地区委員会から呼びかけられていたたたかいにしても、青年とともに始めるたたかいにしても、成功させるためには、取り組み前に班で討議して、意義を掴んだり目標を決めたりする必要があります。意義は青年の要求との関係で深く掴むことが大切です。また、実践に移った後も、必要に応じて討議をおこない、意義や目標を確認するとともに、実践の手応えや改善点を出し合ひましょう。

討議をひと通りしたら、実践に踏み出しましょう。街頭や門前での対話宣伝にしても学習や交流の企画にしても、実践することによって認識が深まり、発展の可能性や改善点がよく見えてきます。実践をすることによって、もっと討議で深めるべきだったことなどが見えてくることもあります。実践したことは班の経験として共有し、再討議の材料にします。

たたかいは、期限や目標の達成まで継続していくことが大切です。実践を繰り返すことで、様々な点において量から質への転化が起きます。継続していくためには、班での目標や意義や手応えの討議を力に、実践をマンネリ化させないことが大切です。変化する情勢を実践に反映し宣伝物や対話内容を変更してみる、交流企画やFWをしてみる、集中的に取り組む期間をもうけるなどの工夫をおこないましょう。また、ひと踏ん張りして、同盟員の決起や新しい青年の参加などの発展を勝ち取ることは、たたかいの実践に励ましと新鮮さを与え、継続の大きな力となります。

第二の強化方向——拡大

第二に、たたかいで結びついた青年を民青同盟の仲間を迎えられる班になりましょう。班が、地域・職場・学園に根差したたたかいに取り組み広げていけば、要求で一致するたくさん青年と出会うことができます。たくさん青年たちとたたかいに力を合わせながら、民青同盟の加盟を呼びかけましょう。たたかいで結びついて加盟した同盟員の、班会への参加と活動への結集は良好な傾向があります。三つのことが重要です。

一つめは、同盟員がたたかいに一生懸命取り組み、たたかいを発展させる姿勢を示し、励まし続けることです。どのようなたたかいにしても、一朝一夕で実るものではありません。そのようななかで、同盟員が民青同盟で学んだことなどを生かして粘り強くたたかう姿を青年に示すことは、青年との共同や結びつきをつくり強化していく基本的な条件です。

二つめは、班で、拡大の独自追求のための「6つの手立て」——(i) 目標を決める、(ii) 班や同盟員の結びつきを書き出し「対象者名簿」をつくる、(iii) それぞれの青年がどのような願いを持っているかつかむ、(iv) その青年が民青に加盟する意義をよく交流する、(v) 知る会の約束をとる、(vi) 加盟呼びかけ文を活用して加盟を訴える——を討議し、実践することです。班会などで時間をとって、丁寧に取り組みしましょう。

三つめは、「6つの手立て」のなかにもありますが、とくに、班としての拡大目標をきちんと決めることです。この情勢のもとで、この大会決議をうけて、自分たちの班は何人の仲間を迎えるのか。討議して、自分たちの目標を決め、記録し、達成しましょう。

第三の強化方向——週一回の班会開催

第三に、週一回の班会開催を中心に、原則的な活動をする班になりましょう。この方向で強化してこそ、強化方向の第一と第二の実践が加速していきます。週一回の班会開催、班長・班委員の選出、民青新聞の活用が重要です。

わけでも最重要なのが、週一回の班会開催です。現在週一回の班会開催は39・5%と低下傾向にあります。この間の方針では、週一回の班会開催をしていくためには、援助する役員の決意、班プランの実行、同盟員拡大が大事と強調されてきました。これをよりいっそう班に引きつけ、週一回の班会開催を班として決意し、班プランの実行に班として責任を持ち、「班が主人公」の拡大で突破していきましょう。すべての班が週一回の班会開催をめざしつつ、全国的には過半数の班が安定して週一回の班会開催をしている状況を、第48回大会期の最低限の目標とします。

班長・班委員の選出を強めましょう。現在、班長のいる班は42・4%と低い到達となっています。班プランの実行が進まない大きな要因となっています。班長・班委員を中心に、方針と照らし合わせて自分たちの班を分析し、「どのような班になりたいか」を決め、班プランをつくり、それを実行していきましょう。

班会での民青新聞の活用は、班に政治的な活力をつくり出し、同盟建設の経験を共有します。民青新聞は、青年の視点で、「二つの異常」の害悪をわかりやすく論じています。これを班会で学習に活用することで、班会に参加するたびに班員は政治的に成長する条件がつくれます。また、民青新聞には、全国各地の同盟活動の経験が紹介されています。班がたかひに踏み出したり、拡大に踏み出したり、科学的社会主義や日本共産党綱領を学んだりするうえで、大いに参考になるものです。

なお、この第三の強化方向は、新しく加盟した同盟員が日常的に結集し、よりいっそう生きいきした班活動がつけられていくためにも極めて重要です。あらゆる青年が加盟し、班会に参加し活動に結集していくためには、たかひ、学び、交流といった豊かな班活動が必要です。週一回の班会開催を中心とした原則的な活動を貫いてこそ、情勢にふさわしい、豊かな班活動が可能になります。そのような班活動を力に、新加盟者への親身な働きかけを強めていきましょう。

(2) 機関活動（都道府県・地区委員会および役員（活動））

■機関活動の課題と発展方向

この間の役員（奮闘）はめざましいもので、民青同盟の前進を支えてきました。班を援助しながら、先頭に立って青年のなかに分け入って対話し、仲間に迎えていくことは、民青同盟

が青年の模索に応えるうえで、なくてはならない活動です。

同時に、全国の機関活動を総体として振り返ると、根本にある二つの課題が見えてきます。一つは、月に一回以上の都道府県委員会・地区委員会の開催が崩れていたり参加者が少なかったりするという事です。これでは役員が集団的な力を発揮していくことができません。奮闘が一部の役員に集中していたり、方針の理解が一致せず活動が進まなくなった、班への提起が不十分になってしまったりする要因となります。いま一つは、役員の学習が遅れているということです。学習セミナー全科目を修了しきっていない役員がまだ少なからず残されています。新加盟者に学習セミナーを徹底していくうえでこれは大きな弱点となります。また、学生オンラインゼミ第三弾および『Q&A 共産主義と自由』についても十分に浸透しているとは言えません。情勢の学習も含めて、大いに発展の余地があります。この二つの課題を乗り越えることで、第47回大会期の役員の奮闘は、より発展的な形で、第48回大会期に生かされていきます。

第48回大会期は、すべての機関が、月一回以上の機関会議を大切に、集団的な力を発揮していきながら、学習を大いに強化していく大会期にしましょう。

■三つの強化方向

二つの課題を乗り越え、機関活動を発展させていくうえで、強化方向が三つあります。

第一の強化方向——成長できる機関および機関会議

第一に、機関および機関会議を、役員が理論的にも実践的にも成長する場としていくことです。役員が成長することで、班援助などもよりいっそう鋭くなっていきます。

どの役員も、経験を積みめば、青年のなかに分け入って対話し仲間を迎えたり、方針に基づいて班を援助し発展をつくったりしていくことができるようになります。しかし、最初からうまくできる同盟員はごく稀であり、討議なり実践なりで誰かの援助が必須です。この援助の役割を機関及び機関会議が担いましょう。

また、学習の基本は独習でありながらも、日常生活のなかで学習をしていくということにも集団の力が必要です。情勢や日本共産党綱領や科学的社会主義、民青の「目的」や同盟建設論について学ぶことをこれまで以上に重視します。共産党の力を借りながら、機関および機関会議での学習を強めましょう。第48回大会期中にすべての役員が学習セミナー全科目を修了するとともに、『科学的社会主義Q&A』と『共産主義と自由』を読了できるようにしましょう。

方針実践の援助も、学習の援助も、機関として、時間を惜しまずやる姿勢を第48回大会期はよりいっそう大事にしましょう。

第二の強化方向——機関活動の担い手を増やす

第二に、機関活動の担い手を増やす努力を、抜本的に強めましょう。新しい同盟員が増え

ている中で、機関活動の担い手が必要になってきています。役員を増やすため、目的意識的に、手立てを強めましょう。

青年のなかに分け入っての対話と一緒にこなうことは実践的には大切なきっかけとなります。また、学習セミナー第三課・第四課に加えて、日常的に、中央常任委員会声明や「リアルタイム」をよく活用したり、特別に「リーダー講座」をおこなったりするなどの工夫をしましょう。

第三の強化方向——青年のなかに分け入って仲間を迎える取り組み

第三に、機関として、青年のなかに分け入って仲間を迎える活動を位置づけ、すべての役員がこれができるようになることを目指しましょう。役員が先頭に立ち青年のなかに分け入って仲間を迎えることは、多くの青年の模索を受け止め展望を示し、巨大なうねりをつくりだすことそのものであり、重要なことでした。同時に、強調したいのは、この取り組みが、同盟建設という点からも大きな意義があったということです。この間のこの方向での奮闘によって、「たたかいのなかで結びつきを広げ、『班が主人公』で仲間を迎える班」をつくるための条件が三つの角度からつくられつつあります。

第一に、実践してきた役員のなかでは、青年の模索への実感、民青同盟が求められているという実感が強くなっています。こういった役員が増えていくことによって、「班が主人公」で仲間を迎えていくうえで、よりいっそう頼もしい機関がつけられていきます。第二に、たくさんの新しい同盟員の存在が班を元気にしています。「新しい班員が生まれて活気づいた」「週一回の班会開催のモチベーションになった」といった経験が次々つけられています。仲間が増えて班が元気になることは、「班が主人公」で仲間を迎えていく根源的な力です。第三に、民青同盟として青年のなかに分け入って仲間を迎えてきた経験は、今後の各分野のたたかいや総選挙のたたかいに全面的に生かされます。そういった役員が増えることで、班はたたかいに踏み出していく手厚い援助を受けられるようになっていきます。

これらの条件をさらに広げ、「たたかいのなかで結びつきを広げ、『班が主人公』で仲間を迎える班」づくりに結実させましょう。それによって、班を含む同盟全体がこれまで以上に青年の模索を受け止め展望を示し巨大なうねりをつくりだしていく組織となっていきます。

(3) 財政・機関紙

たくさんの同盟員を仲間を迎えているなかで、よりいっそう力を入れる必要が出てきているのが、財政活動であり、同盟費納入です。同盟費納入によって、同盟員の同盟員としての自覚は高まっています。夏冬の財政活動は、同盟員拡大の歴史的到達に比例して、同盟員の自覚を大規模に高める取り組みとなっています。毎月の同盟費納入が基本ですが、7月と12月の同盟費は、すべての同盟員からの納入を目指し、特別の取り組みをおこないます。半年毎に口数を着実に前進させていくことを目指しましょう。同盟費口数は同盟活動のバロメーター、これを合言葉に取り組みしましょう。

民青新聞の購読を増やしましょう。歴史的な同盟員拡大のもとで、民青新聞未購読の同盟員も増えています。「みんしんタイム」など班での活用、そして、班での購読呼びかけによって民青新聞読者を増やしましょう。また、「みんしんタイム」以外でも民青新聞を活用することに挑戦しましょう。

(4) 同盟員拡大と、班会への参加と活動への結集

第48回大会期は4000人以上の仲間を迎え、現勢1万人と言える組織になることを目標とします。現勢数万人の民青を展望し、中間的な目標としての第50回大会期中の現勢2万人以上という目標は堅持します。

第48回大会期目標を達成するためには、役員を先頭にした青年のなかに分け入ったの拡大を継続・発展させながら、それを力に班がたたかひのなかで仲間を迎えていくことが重要です。歴史的情勢のもと、方針に基づく努力によってこれを達成しましょう。

また、加盟した同盟員の班会への参加と活動への結集を強める努力と工夫はいままで以上に必要です。本決議の「基礎講座と学習セミナー徹底」「たたかひのなかで結びついて仲間を迎えること」「週一回の班会開催を中心とした原則的な活動」「財政活動」にはその努力と工夫の方向が示されています。これらを踏まえながら大いに探求していくことを呼びかけます。

いま、歴史的情勢にあつて、青年の巨大な模索に展望を示し応えられる、強く大きな民青同盟をつくるのが、あらゆる角度から強く求められています。民青同盟員が数万の規模に向かつて増え続けていくことは、自民党政治を乗り越え新しい政治を切りひらく、現実的な力となります。深刻な実態を抱え模索を強める青年一人ひとりにとって、民青同盟と出会い加盟することは、明るい展望を掴み主体的に社会を変革していく生き方への第一歩となります。新しいたくさんの仲間を迎えることで、民青同盟はより活気づき、要求実現の幅が広がります。大会決議に基づき、方針通りの活動で、民青の前進を次のステージに移行させ、自民党政治を乗り越える青年の巨大なうねりをつくりだしましょう。

以上